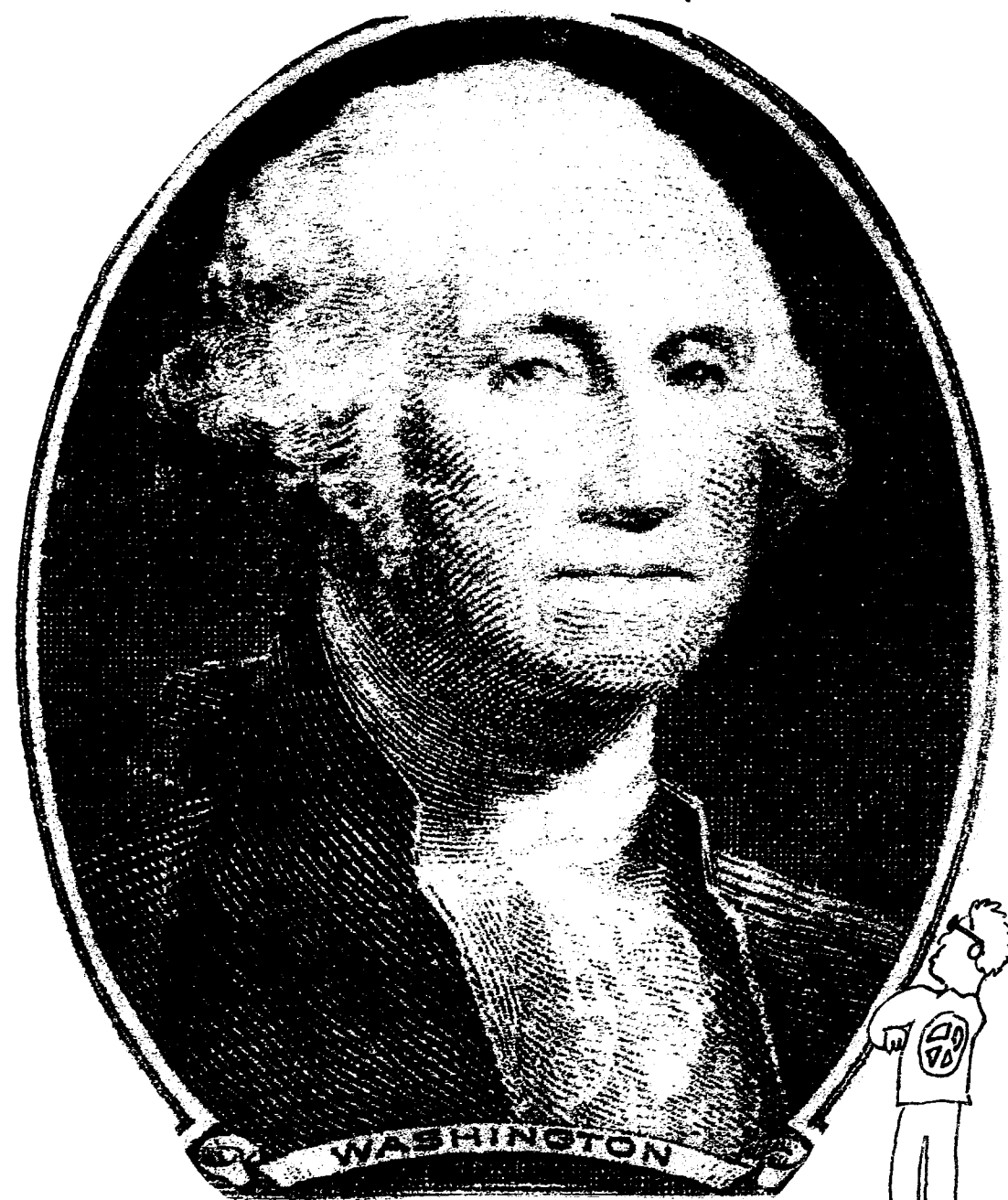


Free Paper #0

くるのかい

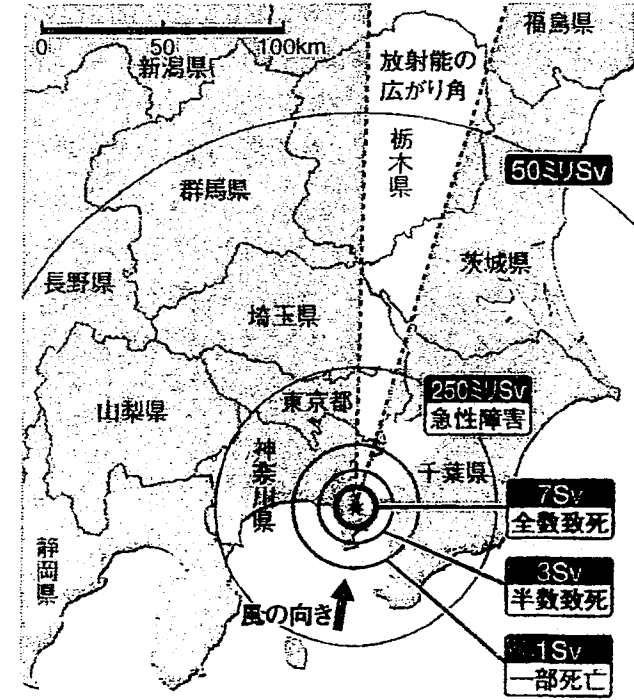
8月19日 来日決定！



エライ空母がやってくる①

原子力空母の原子炉は軍艦に載せているその性格から、陸上の原子炉よりも事故を起こす可能性はるかに高いといえます。10万トンの船といっても、限られた空間でいつも振動にさらされ、急な出動などで無理な出力調整が行なわれる、火薬や燃料などほかの危険物と同居せざるをえない、そして何より、戦うことを任務としているのですから、攻撃を受ける可能性があるのです。下の記事のように、もしも……のときの被害予測が原子力資料情報室から報告されました。（2006年6月15日「東京新聞」より）

原子力空母の事故放射能被害予測



三浦半島の全域 致死被害深刻に

空母原子炉事故発生で…

原子力資料情報室が予測

※南南西の風を想定した場合。単位:Sv=シーベルト

風下の半数が死亡する範囲は、三浦半島のほぼ全域に。米海軍横須賀基地で二ミツツ級原子力空母の原子炉事故を想定した被害予測で、こうした結果が出た。

被害予測は、原子力空母の母港化に反対する市民団体の委託を受けた特定非営利活動法人（NPO法人）「原子力資料情報室」の上澤千尋研究員が行った。

事故は、電気出力四十万瓩の商業用原子炉が、冷却装置が故障して炉心溶融（メルtdown）を起し、格納容器が破裂して放射性物質が大気中に放出したと想定。風速四級で風向きはこの被害を試算した。

予測結果によると、全員が死亡する七割の被曝範囲は風下八キロ。半数致死の三割は同十三キロで、円を描くと三浦半島がほぼ収まる範囲に。さらに頭痛や吐き気などの急性障害を起す二百五十キロは同六十キロで、県内全域と東京都、房総半島の大半が範囲となる。

三浦半島で年間を通して最も多い南南西の風を想定すると都心を直撃。被曝から約十年間で風下の百二十万―百六十万人が、がんで死亡すると推定される。

くるのかい

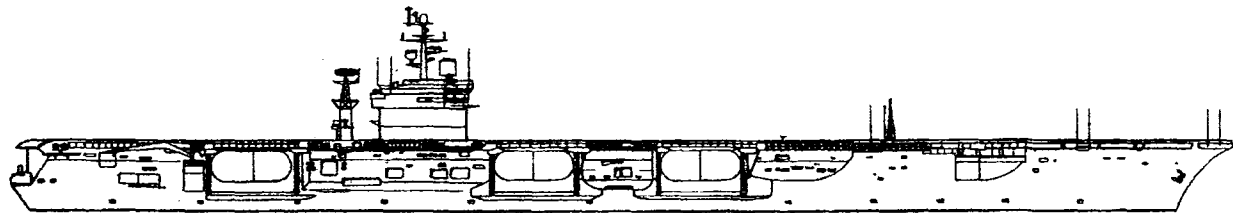
死の三割は同十三キロで、円を描くと三浦半島がほぼ収まる範囲に。さらに頭痛や吐き気などの急性障害を起す二百五十キロは同六十キロで、県内全域と東京都、房総半島の大半が範囲となる。

三浦半島で年間を通して最も多い南南西の風を想定すると都心を直撃。被曝から約十年間で風下の百二十万―百六十万人が、がんで死亡すると推定される。

大きな原子力災害を招く原子力空母の出現は、横須賀に「原発」を設置することと同じで、安全のための十分な隔離をとれず、不可能だと結論づけている。（斎藤裕仁）

エライ空母がやってくる①「カウントダウン09号」 2008年1月26日初刷

くるのかい（03-3329-3955・そうま） 2月16日2版

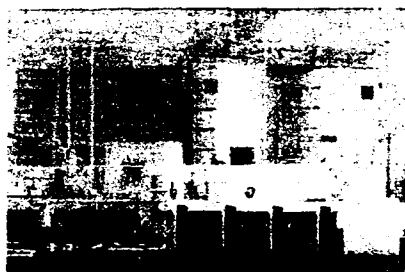


もし、大地震が原子力空母を襲ったら

横須賀では三浦半島を何本も走る活断層による直下型地震の危険が、大きな問題となっています。関東大震災の際、三浦半島では、津波の前に海面が低下し、海底の地盤も大きく隆起しました。横須賀基地では、建造中の軍艦が破壊され、大被害を受けたことが記録に残っています。

原子力空母の横須賀への入港時、あるいはその直後に、大地震が発生して、海面の低下や海底の隆起があれば、原子力空母の海水取り入れ口が海底と接触して、海水の取り入れに支障をきたし、原子炉の冷却ができなくなる危険があります。

また入港後の原子力空母は、原子炉停止後の原子炉が崩壊熱によってメルトダウンを起こさないよう、高電圧の電力供給と、純水の大量供給が必要とされます。現在横須賀基地内に、そのためのガス発電所、変電施設、純水供給工場が建設中ですが、これらは埋め立て地に建てられています。空母の原子炉そのものに被害がなくとも、周辺施設が大地震によって同時に機能しなくなれば、原子炉の暴走につながる事故が発生する危険があります。すでに、佐世保基地では04年7月に、停泊中の原子力潜水艦への電力供給用のケーブルが出火する事故が起きています。



建設中の純水供給装置

日常的な放射能汚染

地震だけではなく、日常的な汚染事故も深刻です。

米海軍は放射能放出事故はないと言いますが、実際にはたくさんの放射能漏れ事故が報告されています。たとえば、

- 1991年、原子力巡洋艦ロングビーチ、バルブ弁故障のため、サンディエゴ湾内に一次冷却水が漏れる。他にも4つの港で放射能漏れ事故、乗組員の2名が脳腫瘍、2名が白血病。
- 1992年原子力空母エンタープライズ、造船所で放射能を帯びた冷却水が漏れて、作業員9名と4室が汚染され、600万ドルの浄化作業を必要とした。
- 1995年、原子力巡洋艦カリフォルニア、放射能を帯びた水が漏れ、3名の水兵が汚染。
- 1997年、原潜ポーツマス、基地での作業中に、2人の労働者が被曝。
- 2000年、原潜オリンピア、ハワイの造船所で修理中に放射性冷却水が漏れ、3名の労働者が被曝。

私たちが知りただけでも、17件もの放射能漏れ事故が報告されています。横須賀でも06年9月に原潜の停泊地の海水から、放射性物質(コバルト)が検出されました。



朝日新聞 06.9.28

8月19日、東京湾に 大きな原子炉がやってくる

その名は ジョージ・ワシントン

初代大統領の名からつけられた

アメリカ海軍の世界最大の原子力航空母艦です。

原発なみの大きな原子炉2基を載せた10万トンの船が日本の安全審査を受けることもなく入港します。

しかもこの日から

神奈川県横須賀を母港として

1年の3分の1は東京湾の入り口に居続けることになります。

入港中は原子炉を停止するというものの、

外洋では放射性廃液をタレ流しすることになります。

首都圏に「動く原発」ができ、周辺海域を動き回ることになるのです。

知っていましたか？ こんな重大な事実を。

それが半年先にせまっています。

横須賀では市民がいちはやく動きだし、

住民投票でその是非を決めようという運動が続いていますが、

ほかの地域にはほとんど知られていません。

身近かに、間近かにこうしたことがせまっていることを

少しでも多くの人に知ってもらおうと

横須賀で発信されている市民の情報をもとに

このようなチラシをつくりました。

くるのかい

エライ空母がやってくるの会(東京)

- 4/26 特報! 【住民投票で決めよう—条例制定の為の署名は4万8千筆—】
5月12日(予定)からの横須賀市議会で可決を目指します。ご注目、ご支援を!

※住民投票運動は「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」

(TEL. 046-824-6663) が取り組んでいます。



ごめんだね
原子力空母の
母港なんて

